

### 福島第一1号の5階写真

#### 東電が公開 燃料プールフロア



五階のオペレーティング・フロアの状況。気球に設置したカメラから東方向・燃料プールの方向を撮影したものの。

東京電力は福島第一原子力発電所1号機の原子炉建屋5階にあるオペレーティング・フロアの状況について、気球を使った二回

原子炉建屋一階から五階のフロアまで吹き抜け部分を利用して気球を上げ、放射線量や横方向に設置した高性能カメラで映像を得た。前回は気球が途中の障害物にあたって五階まで上げられなかったが、今回は成功した。使用済み燃料プールに貯蔵されている燃料の取り出しを行うための状況調査の一環。

### ネットで放射線源を違法販売

#### 文科省が注意喚起

文科省は警視庁から、インターネットでセシウム137を含んだ放射線測定器の校正用標準線源(「写真」を、違法に販売していた「株」オアシストレード」の従業員らを検挙したとの連絡を受け、同線源を購入した方への対応方法などを、ホームページ上で発表した(http://www.me

なお、同線源から五十分離れた場所、一日一時間いた場合、年間四十二・二mSv以下であり、放射線障害のおそれはないとしている。

### 17日早大で福島避難者の集い

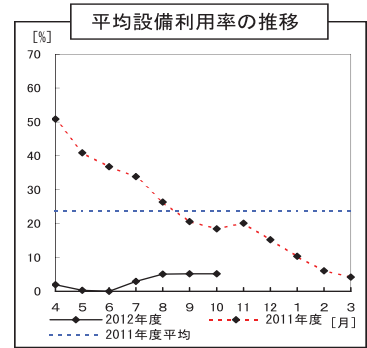
ふんばろう東日本支援プロジェクト福島支部主催の「第四回ふんばろう避難者の集い」が早稲田大学キャンパス22号館で、福島県からの避難者などを対象に、

同標準線源を所持し続ける場合、同法に基づいて罰則が適用される可能性がある。

説明・無料相談会②臨床心理士による心理・生活相談③小・中・高校生向けの学習相談(など)。

わが国の原子力発電所の運転実績

会社名	発電所名	炉型	認可出力 [万kW]	2012年10月				備考
				発電電力量 [MW時]	設備利用率 [%]	稼働時間 [時]	時間稼働率① [%]	
原電	東海第二	BWR	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11- (第25回定検中))
	敦賀 1	"	35.7	0	0.0	0	0.0	第33回定検中(11/1/26-)
北海道	泊 1	PWR	116.0	0	0.0	0	0.0	*1
	" 2	"	57.9	0	0.0	0	0.0	第17回定検中(11/4/22-)
	" 3	"	91.2	0	0.0	0	0.0	第16回定検中(11/8/26-)
東北	女川 1	BWR	52.4	0	0.0	0	0.0	第2回定検中(5/5-)
	" 2	"	82.5	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11- (第20回定検中))
	" 3	"	82.5	0	0.0	0	0.0	第11回定検中(10/11/6-、起動中地震により自動停止)
東京	東通 1	"	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11- (第7回定検中))
	福島第一 5	"	78.4	0	0.0	0	0.0	第4回定検中(11/2/6-)
	" 6	"	110.0	0	0.0	0	0.0	第24回定検中(11/1/3-)
	福島第二 1	"	110.0	0	0.0	0	0.0	第22回定検中(10/8/14-)
	" 2	"	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-)
	" 3	"	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-)
	" 4	"	110.0	0	0.0	0	0.0	東北地方太平洋沖地震に伴う停止(11/3/11-)
中部	柏崎刈羽 1	"	110.0	0	0.0	0	0.0	第16回定検中(11/8/6-)
	" 2	"	110.0	0	0.0	0	0.0	タービン制御系の油漏れに伴う中間停止(07/7/5-)
	" 3	"	110.0	0	0.0	0	0.0	新潟県中越沖地震に伴う中間停止(07/7/16- (第10回定検中))
	" 4	"	110.0	0	0.0	0	0.0	新潟県中越沖地震に伴う中間停止(07/7/16- (第10回定検中))
	" 5	"	110.0	0	0.0	0	0.0	第13回定検中(1/25-)
	" 6	ABWR	135.6	0	0.0	0	0.0	第10回定検中(3/26-)
	" 7	"	135.6	0	0.0	0	0.0	第10回定検中(11/8/23-)
北陸	浜岡 3	BWR	110.0	0	0.0	0	0.0	第17回定検・津波対策実施中(10/11/29-)
	" 4	"	113.7	0	0.0	0	0.0	点検停止(11/5/13- (第13回定検・津波対策実施中))
	" 5	ABWR	138.0	0	0.0	0	0.0	点検停止(11/5/14- (第5回定検・津波対策実施中))
	志賀 1	BWR	54.0	0	0.0	0	0.0	*2
	" 2	ABWR	120.6	0	0.0	0	0.0	第3回定検中(11/3/11-)
関西	美浜 1	PWR	34.0	0	0.0	0	0.0	第25回定検中(10/11/24-)
	" 2	"	50.0	0	0.0	0	0.0	第27回定検中(11/12/18-)
	" 3	"	82.6	0	0.0	0	0.0	第25回定検中(11/5/14-)
	高浜 1	"	82.6	0	0.0	0	0.0	第27回定検中(11/1/10-)
西九州	" 2	"	82.6	0	0.0	0	0.0	第27回定検中(11/11/25-)
	" 3	"	87.0	0	0.0	0	0.0	第21回定検中(2/20-)
	" 4	"	87.0	0	0.0	0	0.0	第20回定検中(11/7/21-)
	大飯 1	"	117.5	0	0.0	0	0.0	0.0
中国	" 2	"	117.5	0	0.0	0	0.0	0.0
	" 3	"	118.0	896,203	102.1	744	100.0	第24回定検中(11/12/16-)
	" 4	"	118.0	895,531	102.0	744	100.0	
四国	島根 1	BWR	46.0	0	0.0	0	0.0	自主点検に伴う停止(10/3/31- (第29回定検中))
	" 2	"	82.0	0	0.0	0	0.0	第17回定検中(1/27-)
	伊方 1	PWR	56.6	0	0.0	0	0.0	第28回定検中(11/9/4-)
九州	" 2	"	56.6	0	0.0	0	0.0	第23回定検中(1/13-)
	" 3	"	89.0	0	0.0	0	0.0	第13回定検中(11/4/29-)
	玄海 1	"	55.9	0	0.0	0	0.0	第28回定検中(11/12/1-)
九州	" 2	"	55.9	0	0.0	0	0.0	第23回定検中(11/1/29-)
	" 3	"	118.0	0	0.0	0	0.0	第13回定検中(10/12/11-)
	" 4	"	118.0	0	0.0	0	0.0	第11回定検中(11/12/25-)
	川内 1	"	89.0	0	0.0	0	0.0	第21回定検中(11/5/10-)
九州	" 2	"	89.0	0	0.0	0	0.0	第20回定検中(11/9/1-)
	合計または平均		4,614.8 (4,896.0)	1,791,734 (6,724,816)	5.2 (18.5)	1,488 (7,526)	4.0 (18.7)	
発電電力量の前年度伸び率 [%]				▲ 73.4				
時間稼働率② (%)				5.1 (18.0)				



炉型	基数	出力 [万kW]	設備利用率 [%]
BWR	26	2,587.0	0.0
PWR	24	2,027.8	11.9

会社名	基数	出力 [万kW]	設備利用率 [%]
日本原子力発電	3	261.7	0.0
北海道	3	207.0	0.0
東北	4	327.4	0.0
東京	13	1,449.6	0.0
中部	3	361.7	0.0
北陸	2	174.6	0.0
関西	11	976.8	24.7
中国	2	128.0	0.0
四国	3	202.2	0.0
九州	6	525.8	0.0

設備利用率 = (発電電力量 / (認可出力 × 稼働時間)) × 100 (%)  
時間稼働率① = (発電時間数 / 暦時間数) × 100 (%)  
時間稼働率② = ((認可出力 × 稼働時間)の合計 / (認可出力 × 暦時間)の合計) × 100 (%)

備考: \*1 一次冷却材中の放射能濃度上昇に伴う点検停止(11/5/7- (第18回定検中))  
\*2 原子炉冷却材再循環ポンプ軸封部取替に伴う停止(11/3/1- (第13回定検中))  
\*3 第24回定検中(10/12/10-、調整運転(11/3/13-7/16)、蓄圧タンク圧力の低下に伴う停止(11/7/16-9/20))

※お断り  
圧力プレート設置に伴い、志賀2は135.8万kWから120.6万kWに出力を変更している。各表のデータは、変更後の数値に基づく。

### 原子力発電所運転速報

## 10月、大飯3.4のみで利用率5.2%

### 北海道電力、停電リスク対策強化

原産協会の取りまとめによると、10月の国内原子力発電所の稼働状況は、前月に引き続き、関西電力大飯3、4号機の二基のみの運転で、全体の設備利用率は五・二%となった。停止中の発電炉の再稼働が見込まれない需要ピークが長期に及ぶ道内の安定供給確保のため、火力発電設備の計画外停止・出力抑制など、リスクを考慮する必要があるとしている。

融通に制約があることなど、地理的な特殊性から、電源脱リスクへの対応を行うものとしている。現時点、道内の泊1(3号機(計二百六十一・七万kW))すべて停止中で、再開の見通しが立たぬところ、北海道電力では、最大電力を一〇年並の厳寒を前提として、五百六十三万kWと想定、水力・火力発電設備の補修時期調整、緊急設置電源の追加導入などの供給力確保に加え、新たな需要対策も合わせて導入し、十二月で六百七十七万kW(予備率七・八%)、一月で六百二十万kW(同六・七%)、二月で五百九十六万kW(同五・八%)を確保できる見通ししている。しかしながら、厳しい気象状況下、電力需要ピークが長期に及ぶ道内の安定供給確保のため、火力発電設備の計画外停止・出力抑制など、リスクを考慮する必要があるとしている。